

BASS POD PRO

The Complete Bass Tone Solution

取扱説明書



株式会社サウンドハウス
Professional Sound Equipment Specialist
〒286-0044 千葉県成田市不動ケ岡 1958
TEL:0476-22-9333 FAX:0476-22-9334

はじめに

　この度は、LINE6 社製の BASS POD PRO をお買い上げ頂き、誠に有り難うございます。
本品の性能をフルに発揮させ、末永くお使い頂く為に、ご使用になる前にこの取り扱い説明書を必ずお読み下さい。尚、お読みになった後は、保証書と一緒に大切に保管して下さい。

ご使用の前に

1. この取り扱い説明書にしたがって操作して下さい。
2. 水には大変弱いので、雨などがかからないよう充分ご注意下さい。
3. 内部には精密な電子部品が多数実装されています。移動及び輸送時には大きな衝撃が加わらないようにして下さい。
4. 本機の設置場所は直射日光の当たる場所やストーブの直前など、高温になりやすい場所を避け、なるべく通気性の良い場所で御使用下さい。
5. 定格電圧 AC100V,50/60Hz で御使用下さい。
6. 電源コードは機材への挟みこみ等、無理な力が加わらないよう、御注意下さい。
7. 信号の入出力端子に、許容範囲を越える異常電圧が加わらない様にして下さい。
8. 故障や感電事故を防止すると共に、性能を維持する為にも、ケースを開けて内部に触れたりしないでください。修理が必要な時には、販売店までお問い合わせ下さい。

Quick Start

1. BASS POD PRO をレコーディング用に使用される場合、リアパネルの LIVE/STUDIO スイッチを‘ STUDIO ’に設定し、BASS POD PRO のフォン又はキャノン出力端子からミキサーやレコーダー入力へ接続するか、ヘッドフォンを接続して下さい。
2. BASS POD PRO をパワーアンプとスピーカーキャビネット前に接続するプリアンプとして使用する場合、リアパネルの LIVE/STUDIO スイッチを‘ LIVE ’に設定し、BASS POD PRO のフォンモデル出力からアンプの入力端子へ接続して下さい。（この場合キャノン端子は使用しないで下さい。）
3. ベースを BASS INPUT JACK に接続し、端子上のスイッチを‘ BASS INPUT ’に設定して下さい。
4. リアパネルの POWER をコンセントに接続し、フロントパネルの POWER スイッチを入れて下さい。（この際、ミキサーやアンプの音量を下げておいて下さい。）
5. アンプモデルを選択して下さい。
6. チャンネル音量を最大にして、BASS、MID、TREBLE を好みに合せて設定して下さい。OUTPUT LEVEL が出力レベルの調節を行います。
7. EFFECTS 設定を選択し、EFFECT TWEAK と COMRESS LEVEL で調整を行って下さい。
8. 上/下の矢印ボタンを使用しプリプログラムを選択するか、MANUAL ボタンを押して、各ツマミの位置の音が出るようになります。
9. これで一通りの使用ができます。

各部の説明

（英文マニュアルの最後のページに折込まれている図と合わせてご覧下さい。）

CONTROLS & CONNECTIONS

1. Power Switch：**フロントパネルの左側に設置されています。**BASS POD PRO**のオン/オフ・スイッチです。**
2. Bass Input：**フロントパネル右下に設置されています。ここにベースからの出力を入れます。（モノラル又は、アンバランスの接続を選択します）**Reamp**（テープやディスク等のトラックをプロセスする際）またはベース・ライン・レベルではないものを接続する際、背面にはラインレベル入力端子も装備しています。ワイヤレス・システムなどのラインレベル出力を接続する際にも使用します。**
3. Input Select Switch：**フロントパネル右側です。このスイッチでフロントパネル**Bass Input**またはライン入力からの接続を選択します。**
4. Phones：BASS POD PRO**の左下です。ヘッドフォンを使用する際は、ここにプラグを差し込みます。**OUTPUT**レベルの調整によってボリュームをコントロールが可能ですので、色々な種類のヘッドホンがご利用頂けます。ヘッドホンを使って**BASS POD PRO**を使用する際はレベルの設定に注意して下さい。ヘッドフォンを接続するとモデリング音が**AmpModel**と**DI**出力端子の両方から出力され自動的に**A.I.R.**プロセッシングが起動してスピーカー/マイク/ルーム音を聞くことができます。**DI**出力を使う場合、または**A.I.R.**機能が必要でない場合はヘッドフォンを差し込まないで下さい。**
5. Output Level： BASS POD PRO**の全体的な出力のレベルとヘッドフォン・レベルの調節をします。**BASS POD PRO**にプログラムを保存する際に、この設定は保存されません。**OUTPUT**レベルを変更しても音色は変化しない為、ボリューム・レベルに関係なく好きな音作りができます。レベルコントロールを最大にすると最善の**S/N**比を得ることができます。出力レベルを下げるとノイズが発生する場合があるので気を付けて下さい。レコーディング、ミキシングやその他スタジオ機器等でできるだけ出力レベルを高くするためには、**BASS POD PRO**の出力をマイクや楽器用入力端子ではなくラインレベルの入力に差し込んで下さい。これにより、**BASS POD PRO**の出力レベルをベストな状態に調節できます。もしお持ちの機材がマイク/ラインレベル用の入力端子でしたら、それらの入力レベルをまず最小に、そして**BASS POD PRO**の出力レベルを最大にしてからセッティングして下さい。**
6. **Manual Button**：BASS POD PRO**の中心部。ボタンを押してライトが点灯するとマニュアルモードが作動します。このモードでは、現在、設定されているノブのセッティングの音を聞く事ができます。**
7. **Channel Up/Down Buttons**：Manual**ボタンの左側。**BASS POD PRO**は**36**種類のアンプシミュレーターが組み込まれ、これらは**4**チャンネルの**9**バンクにアレンジされています。（**4**つのチャンネルは**A、B、C、D**に分かれています）。各バンクには**4**チャンネル・ベースアンプがあるのと同様に考えて下さい。これらは**BASS POD PRO**用オプションの**Line 6**フットコントローラー（**Floor Board と FB4**）と同じレイアウトを使用しています。（この後のセクションに記載されています。）**Up/Down**ボタンを押して**BASS POD PRO**のチャンネルにアクセスします。次のチャンネルへ行く時はどちらかのボタンを押して下さい。**Up/Down **ボタンをホールドすると次のバンクへ変わります。**

Manual モードが使われていない時は Manual ボタンのライトは消えています。ノブの位置は現在呼び出しているチャンネルのセッティングとは関連していません。その状態からそれぞれのノブを回す事でどんな変更も簡単に行なうことができます。詳しい説明に関しては、この後のセクションを参照して下さい。

8. **Amp Models**：文字で囲まれた左上のノブです。ノブを回すと、BASS POD PRO 内のアンプシュミレーションによって音が変わります。（英文マニュアルの APPENDIX A を参照して下さい）。

Amp Model を選択すると自動的に Cabinet Model も選択されます。例えば RockClassic モデルを選ぶと Ampeg の SVT ヘッド、Ampeg の SVT8x10 ベースキャビネットのモデルが選ばれます。Effects/Cab ノブを使って Cabinet を選択することができます。実際、BASS POD PRO では Amp Model ノブの調節によってアンプに関連する全ての設定が選択されます。Drive, Bass, Mid, Treble, Cab 等全てのアンプ設定は選ばれた AmpModel によって決まります。BASS POD PRO でお好みのサウンドセッティングを楽しんで下さい。そして BASS POD PRO の操作に慣れてきたら各モデリングアンプ音をカスタマイズすることも可能です。

9. **Drive**：ノブが集まっている場所の一番左。このノブは選択したアンプモデルの入力をどれくらいドライブさせるかをコントロールします。マスターボリュームのないベース･アンプの入力ボリューム･コントロールと同様です。高く設定するほど歪みが多くなります。

10. **Tone Controls**：Drive ツマミの右にベース、ミッド、トレブルが設置されています。通常のベースアンプと同様にアンプモデルを変更すると、レスポンスとコントロールの相互作用が変わり、アンプモデルのオリジナル･アンプのトーン･コントロールと同じ様に作動します。

11. **Channel Volume**：演奏している“チャンネル”のボリューム･レベルをコントロールします。2 つの別々のチャンネルに保存された音の間のレベルを均等にする為に使用します。通常、最良の S/N 比パフォーマンスを確実に得る為にチャンネル･ボリュームをできるだけ高く設定します。

12. **Compress**：コンプレッサーのレベル調節用つまみ。ベース音の録音を成功させる為にはコンプレッサーの使用が不可欠です。それ故スタジオにおいて往年の名器として使われてきた LA-2A をモデルとしたプログラマブル・コンプレッサーを搭載しています。つまみを上に上げるとコンプレッションレベルが上がり、つまみの位置を最小にするとコンプレッサーが切れます。

13. **Effect Tweak**：エフェクトのかかり具合を補正するのがこの EFFECT Tweak です。ツマミを上げると、選択されているエフェクトの効果が深くなったり大きくなったりします。エフェクト･パラメーターに関しては Appendix B 又は、エフェクトの章を参照して下さい。Effect ノブが Bypass になっている場合、Effect Tweak は何ら影響を与えません

14. Effect/Cabs：使用するエフェクトを選択します。（詳細は POD Effects の章をご参照下さい）Cabinet Model を選択するには、CABS AND EQ ボタンを押してからつまみを回して下さい。使用可能なキャビネットはつまみの周りにグレー色で表示されています。Amp Model をつまみによって選択すると最適なキャビネットが自動選択されます。Amp/Cab のペアはカスタマイズが可能です。

15. **Tuner**： BASS POD PRO の中心部にあるボタン。このボタンを押すとデジタル･チューナーが作動します。その時、全てのエフェクト処理がバイパスされる為、音程がおかしい弦をはっきりと聞く事

が出来ます。（チューナー･モードに入るとナチュラルかフラットのどちらかで表示されます。例えばG＃の場合 A♭で表示されます）。左側の矢印が点灯すると基音より低く、右側の矢印が点灯すると基音より高くなっている事を表示します。両方が点灯するとチューニングが合っているということになります。本体のボタンのどれか 1 つを押すと、通常のオペレーションに戻ります。

Tuner Volume：チューナーが作動している時に（チューナー･モードを使用していない時、ボリュームは変わりません）、チャンネル･ボリュームのノブを回すとチューニング時のボリュームを調節する事ができます。フロアーボードを接続すると、ボリュームペダルでチューナー･ボリュームを調節します。

Tuner Reference：A=440Hz とは異なる値でチューニングする場合はどのようにしたら良いのでしょうか？まずチューナー･モードを使用している時に、ディスプレイを見ながら Mid ノブを回します。これで周波数を 436～445Hz の間に設定する事ができます。この値の設定は保存される為、違う値に変更する事がない限り使用するたびにリセットする必要はありません。値は 1 桁分しか表示されません。例えば、チューナーを 441Hz に設定すると、画面には 1 と表示されます。

16. Apply FX to D.I.：プログラムしたエフェクトを D.I.出力（または AMP MODEL の出力）で聞く時に使用して下さい。詳細は BASS POD PRO Effects の章をご参照下さい。

17. Cabs and EQ：ボタンのライト点滅時、以下の作業が可能です。

1） Cab Model Select(Effects ノブ)

Cabs and EQ のボタンが点滅しているのを確認してから Effect/Cabs つまみを回し 15 のベースキャビネットモデルを選択することができます。

2） Digital Out Level (Drive ノブ)：

Cabs and EQ ボタンが点滅している事を御確認の上、Drive ノブを回すと、デジタル出力レベルの調整を行います。最小値に設定するとデジタル出力に余分なゲインを出力しません。最大値に設定されますと、フルレンジのデジタル出力を得る為 24dB のゲインが足されます。しかし、設定をあまり高く設定した場合、デジタル･クリッピングが発生しますので御注意下さい。

3） Post-Modeling EQ(Bass, Middle and Treble ノブ)：

高性能のパラメトリックタイプ・イコライザーで BASS POD PRO サウンドの微調節が出来ます。ベースの倍音周波数を押さえたり、モデリングアンプの音に手を加えたり、周波数をカットしたい時に使用します。使用する際は Cabs and EQ のボタンが点滅しているのを確認して下さい。Bass つまみは EQ 周波数の選択に、Middle は狭いレンジ周波数または広いレンジの周波数の選択に、Treble は+12db までのブースト、または無制限のカットする為に使用します。Treble を 12 時の位置に合わせると EQ はオフの状態になります。

4） FX Lo-cut(Chan Vol ノブ)：

この特別機能を使って基本的な周波帯の音色を変えずに高域のみにエフェクト効果を与えることができます。Cabs and EQ のボタンが点滅を確認後、Chan Vol つまみを回して FX Lo-cut の周波帯をセットします。

5） Noise Gate (Compress ノブ)：

ハイゲインの設定にされているアンプが発する「ヒス」や「ノイズ」を抑える為 BASS POD PRO にはノイズゲートが内蔵されています。ノイズゲートを使用するには、Cabs and EQ のボタンが点滅状態で、

Compress つまみを 1 時の位置より右側に回すとノイズゲートが起動します。ノイズケートを消すには、Cabs and EQ ボタンが点灯していることを確認し、Compress ノブを 11 時の位置より左側に移動して下さい。

6） Mid Frequency Sweep (EffectTweak ノブ)：
6 種類のモデリングアンプは選択可能なまたはスイーパブルのミッドコントロールが付いています。Adam&Eve, Amp360, Rock Classic, Session, Stadium, Sub Dub で使用することができます。その他のアンプで使用できません。スイープ可能な周波数についての詳細は AmpModels の章をご参照下さい。この機能を使用するには Cabs and EQ ボタンが点灯していることを確認し、EffectTweak ノブを回して使用下さい。

7） Time Alignment (HOLD Cabs and EQ, Chan Vol ツマミを回して下さい)：
最後に 1 つ便利な機能を御紹介します。この機能でモデル出力に対して D.I. 出力の時差整列（Time Alignment）の調整が行えます。当然の事ながら EQ、モデルチューブ、モデルキャビネット、そして A.I.R. で処理されますと各周波帯でのフェーズ関係にズレが発生します。これは音が実際のアンプ、スピーカーそして空間を通る際に起こる変化と同じ現象です。処理されていない信号と動的シフトを起している信号とミックスしますとこのシフトが発生してしまいますが、2 つの信号の微調整が行える為、効率良くミックスが行えます。D.I. には 8msc のオフセット・タイムが用意されています。タイム・アライメント機能を御使用になる際は、Cabs and EQ ボタンを押しながら Chan Vol ツマミを回して下さい。最小値では D.I. とモデルの間にはオフセットがありません。最大の設定でオフセットは 8msc になります。Cabs and EQ ボタンを離しますと通常通り、チャンネル音量または FX ローカットの調節を行います。タイム・アライメント設定は他のトーン設定等と同様、その指定されたチャンネルの設定である為、保存されても使用されているチャンネルのみ影響します。その為、各プログラムのモデル+D.I. の組合せを最適な状態にチューンする事が出来ます。（プリセットされているプログラムは既に設定が行われています。）

18. Save：自分で作ったサウンドを保存する時にこのボタンを使います。詳細は Creating & Storing Sounds を参照して下さい。基本的な操作に関してここで説明します。前もってプログラムされた BASS POD PRO プリセットの 1 つを使用する際、1～9 の番号と A～D のチャンネルの文字がディスプレイに表示されます。そしてどれか 1 つのノブを回すと、“ EDITED ” の文字がディスプレイの左端に表示されます。これはチャンネルをセーブすることを忘れないようにする為、表示されます。変更保存する場合は Save（18）を押します。セーブボタンが点滅し始めたら、Up/Down ボタン（7）を押して下さい。1～9 のバンク内の A、B、C、D から保存先を選び、Save ボタンを再度押します。Save ボタンの点滅が止まり、選択した場所にサウンドが保存されます。前に保存されていたサウンドは上書きされます。保存した後は、UP/DOWN のボタンを押すだけで保存先を呼び出す事ができます。

前もってプログラムされたサウンドを使用しない場合は、マニュアル･モードにおいて、ノブが設定されている所のサウンドが得られます。その設定値を保存したい場合、上記と同じ方法で保存先を選択して下さい。UP/DOWN ボタンを使って保存先を選択し、再度 Save ボタンを押すと完了になります。Manual、Tuner、または MIDI ボタンを押す事で保存をキャンセルする事が可能です。（セーブボタンを押してから 5 秒間の間どのボタンも押さなければ保存はキャンセルされます）

セーブする前に、“ プリセット ” に記憶されたサウンドをテストすることがあるかもしれません。その

際、オーバーライトしても良い保存先を覚えておくと良いでしょう。

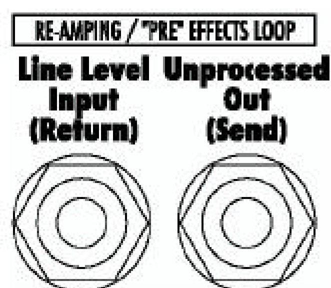
注意）セーブをし始めた後、その処理を止めたい場合は、タップテンポ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート又は、MIDI ボタンのいずれかを押してセーブモードをキャンセルする事が出来ます。

19．MIDI：MIDI チャンネルの設定とサウンドのダンプを MIDI 経由で実行するのに使用します。詳細は Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。

REAR PANEL CONNECTIONS

Line Level Input & Output/“Pre”Effects Loop:

下の図のように端子が 2 ヶあります。このフォン端子はライン信号を BASS POD PRO へ入出力し、-10dBV のアンバランス信号を流します。ライン入力を使用する場合は、必ずフロントパネル・スイッチ３をライン入力の位置にセットしておきます。



さて、このジャックで何ができるのでしょう？

Re-Amping

オリジナルの POD が価値ある音づくりの道具と評される理由のひとつはベース・トラックの Re-Amping ができるところにあります。例えばベース・トラックを数トラック、既にレコーディングし終わってミキシングをするところだとしましょう。ベースにもう少しエッジが必要、もしくは音のシェーピングが必要な場合、録音したテープまたはディスクからの出力を BASS POD PRO に流せばその効果が実感できます。フロント・パネルの入力選択スイッチ３をライン入力の位置にセットすることを忘れないようにしてください。

HardwareAmp Farm

Line6 の Amp Farm ソフトは ProTOOLS システムに入っている BASS POD PRO ソフトのようなものです。Amp Farm の機能のひとつに、Amp Farm プラグ・イン・ソフトウェアを使って丁寧にプロセッシングした楽器の音を聞きながら、未処理の楽器の音をディスクに落とせるという機能があります。トラッキングしながらそのアンプ・シミュレーションのサウンドが聞けますが、レコーディングしているわけではありません。（ボーカルのレコーディング時にリバーブを取り入る方法に類似しています。つまり Post tape/disk の信号をモニターしながら、あるいはトラックにおとす前に信号を別々に送りながら素の声をトラックに録音するのです。）BASS POD PRO のライン入出力ではこれが可能です。レコーディング機材に未処理のベース出

力を差し込み、トラックの出力をライン入力に差し込んで下さい（または録音済トラックからの信号を受信するエフェクト・センドを通じてライン入力に送信します）。ここでトラッキングしながらBASS POD PROのプロセッシングを聞く事ができますが、まだテープに流す音の選択を指示していませんから、トラック同士がマッチしているかどうかを確認し、ミックスする際にMarshallからAmpegまでお好きなように変更することが可能です。また、キャビネットモデルを変更することもでき、あらゆる角度からサウンドを変えることができるのです。フロント・パネルの入力選択スイッチ３をライン入力の位置にセットすることを忘れないようにしてください。

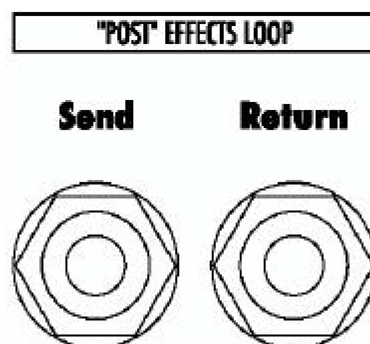
Non-Bass Processing：BASS POD PRO、Amp Farmで共によく使われるもうひとつの機能は、ベース以外の音もいろいろとプロセッシング出来る機能です。ドラム、ボーカル、キーボード、ミックス全体．．．何でも可能です。Line6のモデル製品を使って様々な音をプロセッシングしていきます。BASS POD PROのライン入力を使ってこれらの信号を接続することができます。フロント・パネルの入力選択スイッチ３をライン入力の位置にセットすることを忘れないようにしてください。

Tuner Output：外部チューナーを使う場合は、Unprocessed Out に接続します。BASS POD PROにて処理される前の信号が取出せます。

Wireless Connection：多くのワイヤレス・システムにはライン出力がついています。これをBASS POD PROのリアパネルにあるライン入力に差し込めば準備OKです。フロント・パネルの入力選択スイッチ３をライン入力の位置にセットすることを忘れないようにしてください。

“Pre” Effects Loop：エフェクト・ループとしてご使用になれます。BASS POD PRO のSendから外部エフェクトの入力端子に接続します。そして外部ユニットの出力からReturnに接続して下さい。このような接続をする事により外部エフェクトがBASS POD PROのアンプ/エフェクト・プロセシングより前に入ります。この接続方法ですとModel出力とD.I.出力の信号両方に外部エフェクトがかかります。Modelから出力される信号のみエフェクト処理し、D.I.出力の信号は未処理で接続したい場合は次のセクションの詳細を参照下さい。

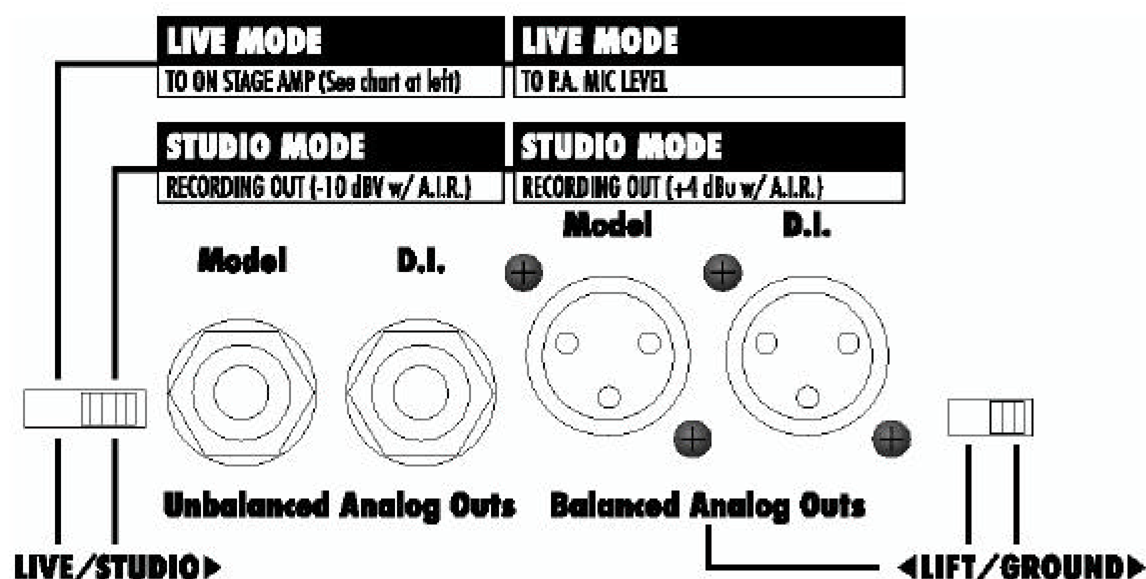
“Post” Effects Loop：この-10dBVアンバランス・フォン端子は外部エフェクトをBASS POD PROに接続することが可能です。このループはモデル出力のみ影響し、D.I.出力は外部エフェクトがかかりません。



このエフェクトループを使用するにはBASS POD PROのSendから外部機材の入力端子に接続して下さい。外部エフェクトの出力からBASS POD PROのReturnに接続する事でBASS POD PROのモデル出力のみがプロセスされるエフェクト・ループとなります。このエフェクトループはD.I.出力には影響しません。エフェクトをモデルとD.I.信号両方にかける場合はRe-Amping/“Pre”Effect Loopでの接続を行って下さい。

Live/Stereo Mode,XLR&フォン出力

BASS POD PROのパワフルな機能のひとつとしてLive/Studio モードとXLR/フォン端子がついています。スタジオの中で、ステージ上で、またハードディスク・レコーダーへ直接録音する場合や、更にはスタジアムライブのようなスピーカー・キャビネットの壁に囲まれた大音量のサウンドでのプレイなど、あらゆるシーンにおいて大変応用の利くベース・ツールを提供します。



Studio Mode

Live/Studioスイッチを Studioの位置にすると、+4dBu 出力のバランス仕様XLR（1組）と-10dBVのアンバランス・フォン接続（1組）が使用できます。共に同じ信号（スピーカー/マイク/ルーム・エミュレーション向けのA.I.R プロセッシングを含む）を送るのでレコーディング機材に接続するのに最適な接続方法を選べます。

Live Mode

Live/Studio スイッチを Live の位置にすると、フォン出力とキャノン出力の独立した信号を得ることができます。

✍ フォン Model 出力で（スピーカー/マイク/ルーム・シミュレーション無しで）ライブに使用するパワーアンプに接続しスピーカーに信号を送ります。

✍ フォン Direct 出力レベルとフォン Model 出力レベルはフロントパネルのボリューム・ツマミで

調整します。

✍ キャノン端子はマイクレベルのバランスアウトで、グラウンドリフトも可能です。ステージ上のマルチケーブルの BOX、その信号をハウス・ミックスや PA に直接送ることができます。この出力信号は、特別にチューンナップされたスピーカー・シミュレーションによりマイクの音がスピーカーにハウリングしたり、信号の途切れ等のトラブルを防ぎ、完璧なサウンドを提供します。この信号はマイクレベルなので、ハウス・ミキサーや PA のマイク入力（ライン入力ではなく）に接続することを覚えておいて下さい。

✍ キャノン Direct 出力レベルはフォン端子と違い、フロントパネルの Volume ノブには影響されません。

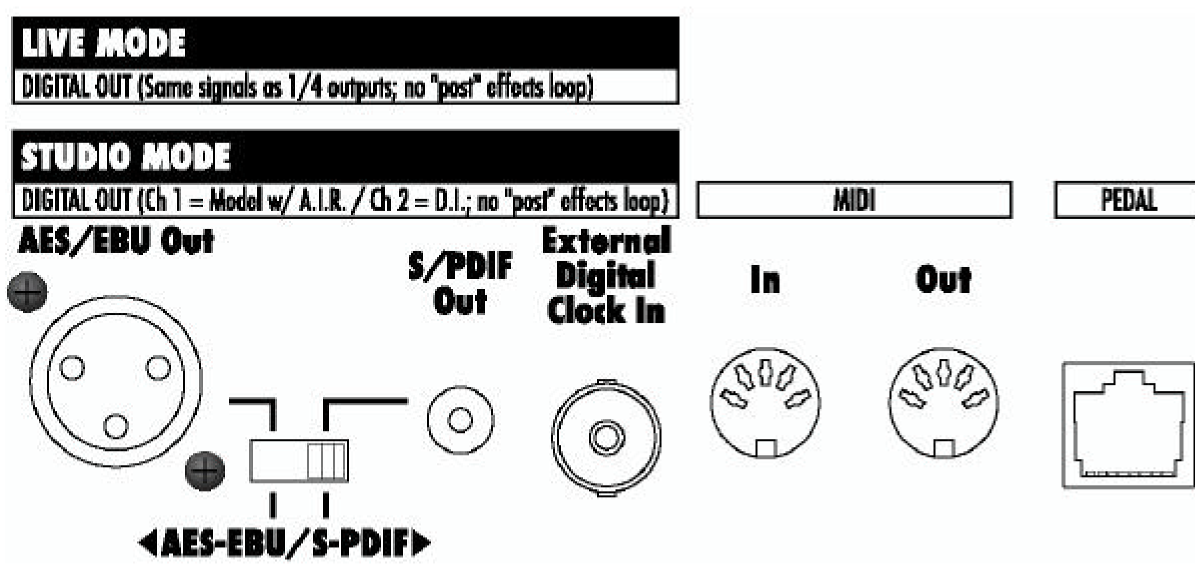
Live Mode フォン出力ボイシング：ライブモードではフォン端子の“ ボイシング ”を選択し、使用されるスピーカー・セットアップと最も良い相性になるよう設定します。選択可能な 4 つのプリセットは以下のようになります：

Live Mode フォン出力ボイシングの設定

1. BASS POD PRO の電源が入っていない事を確認して下さい。
2. **SAVE** を押しながら電源を入れて下さい。
3. **UP/DOWN** ボタンを使ってモードを選択します：
   A. スタンダード・チューニング（良くチューニングされたフルレンジ・システムに最適。Eden とホーン付 SWR 4x10 を元に音作りを行いました。）
   B. ベース・ブースト（直径が小さめのスピーカーをご使用の際、選択して下さい。）
   C. ミッド･ブースト（ミッド/プレゼンスを上げる時に選択して下さい。）
   D. トレブル・ブースト（ヘビーなキャビネットを使用される際、選択して下さい。）
4. SAVE を押す事で決定します。

Digital Output & Clock

BASS POD PRO には AES/EBU 用と S/PDIF フォーマットの 24 ビット・デジタル出力用の接続端子がついています。これを使って BASS POD PRO を直接、デジタル入力のあるレコーディング機材に録音することができます。



External Digital Clock In の接続端子はデジタル・ミキサーやレコーダーからのクロック信号を受信して BASS POD PRO のデジタル出力をシステムとシンクさせます。BASS POD PRO のフロントパネルの Digital Sync ⑳のスイッチでこのデジタル出力のサンプル・レート（44. 1KHz または 48KHz）を決め、この出力が外部クロック・ソースにシンクするかどうかを決めます（この時のサンプル･レートは、入ってくるデジタル・クロックのサンプル・レートにシンクします）。

デジタル・ミキサー/レコーダーのマニュアルを開いて、デジタル・クロックの構築について確認して下さい。Line6 テクニカル・サポートがいかにフレンドリーで高度な技術をもち親身に相談にのってくれる人間ばかりであったとしても、新しいデジタル・レコーディング機材に適したスタジオ全体の構築法を指導したり、デジタル・オーディオ・ソフトが財務管理ソフトとかち合ってしまう理由を教えることはできません。しかし 1 人で四苦八苦しなくて済むよう、ここに便利なやり方をいくつか紹介して既存のスタジオで BASS POD PRO を上手に活用できるようにしたいと思います。

一般的に２通りの状況が考えられます。

- ①－お持ちのデジタル・レコーダー/ミキサーにクロック出力が付いている場合は（Digidesign 社の Pro Tools888、MOTU 2408、ヤマハ O2R デジタル・ミキサー等）、そのデジタルレコーダー/ミキサーをクロック･マスター（一般的に“Internal Sync”のような感じで呼ばれています）にして、BASS POD PRO の Digital Sync スイッチ⑳を External にセットします。すると、BASS POD PRO がレコーダー/ミキサーからサンプル･レートを引き出し、システムに完全にシンクロしたデジタル信号を出力します。
- ② －お持ちのシステムにクロック出力が付いていない場合（Digidesign の Audiomedia や Digi 001、Digital Audio Labs の Card D 等）は、BASS POD PRO の Digital Sync スイッチ⑳を 44.1 か 48 にセットします（EXTERNAL ではありません）。そしてお持ちのレコーダーが、BASS POD PRO から入ってくるデジタル入力にシンクするようセットして下さい。

MIDI In & Out

BASS POD PRO を MIDI 機器に接続して、チャンネル・メモリーの選択（Program Change メッセージを通して）や、BASS POD PRO 設定の自動化（コントローラー等を使って）を行いましょう。PC 編集・PC 保存用に Emagic SoundDiver ソフトが Line6 のサイト（http://www.line6.com/）よりダウンロード可能です。これには ToneTransfer といって Line ６の Web 上で公開している Library などのサウンドにアクセスすることができるソフトも入っています。BASS POD PRO の MIDI OUT は別の機材の MIDI IN に接続します。同様に BASS POD PRO の MIDI IN を別の機器の MIDI OUT に接続します。Deep Editing ＆ MIDI Control を参照してお持ちの MIDI 機器に BASS POD PRO をセットアップして MIDI を活用して下さい。

Pedal Connector

このコネクターは一見、大きな電話コネクターに似ています。ここにオプションの Line6 Floor Board や FB4 フット・コントローラーをつなげます。フット･コントローラーについての説明が本マニュアル後半にあり、多くの利点を紹介しています。

SETTING UP IN THE STUDIO

BASS POD PRO をレコーディングに使用しようと考えているなら、セットアップについて知る必要がある点をここに挙げます。ライブで BASS POD PRO を使う場合は次の LIVE SETUP をご覧下さい。丸で囲んである番号は BASS POD PRO 英文マニュアルのバックカバーと対応しています。

Live/Studio Mode スイッチ

まず BASS POD PRO のリアパネルを確認し、Live/Studio Mode スイッチが Studio の位置にセットされているかどうか確認して下さい。このスイッチで BASS POD PRO の出力とシグナル・プロセッシングの内容が決まります。

INPUTS

BASS POD PRO には入力端子が 2 ヶついています。

1 つはフロントパネルの BASS INPUT、そしてもう 1 つはリアパネルの LINE INPUT です。フロント・パネルにある Input Select スイッチ③を動かして、使用する入力を選択します。

Bass Input

ベース・アンプやプリアンプのベース入力と同じです。ケーブルの片方の端をベースに差込み、もう片方の端をここに差し込みます。

Line Level Input ライン入力

リア・パネルにあるライン入力は " Re-Amping/"Pre" Effects Loop " とかかれた枠の下にあります。この端子は BASS POD PRO でプロセッシングするライン入力用または外部エフェクトを接続するエフェクトループとして使用可能です。（Loop と Re-Amping の章を参照）

OUTPUTS 出力

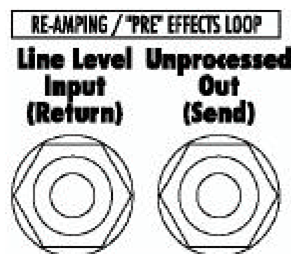
BASS POD PRO は他の機材との接続が自由自在で、入力が多数ついている高価な SSL ミキサーでさえも、ポータブル・カセット・レコーダーに接続する時のように簡単に接続することができます。

BASS POD PRO をスタジオの他の機材に接続する時は、マイク入力やベース入力ではなく、必ず BASS POD PRO 出力を接続する機材のライン入力に差し込んで下さい。これを行うことで確実に最高の S/N 比（ヒス音の少ない充実したベース音）を得ることができます。一部の機材ではマイク/ラインレベルの音源に同じ入力を使用して、マイクのような低いレベル 信号を、入力時に高いレベルに整えることができます。BASS POD PRO をこういった機材に差し込む場合は、これを最小に抑えて BASS POD PRO の Output Level と Channel Volume のツマミを最大に回します。お持ちの機材にオープンライン入力がいくつかついている場合はこれに差し込むことで、レンジの幅が広いトリムマイク－ライン入力よりも良い効果を得ることができるでしょう。

BASS POD PRO にはアプリケーションの幅や様々な機材に対応できるよう、出力がいくつかついています。リアパネルに向かって左側から順にひとつひとつ見ていくことにしましょう。

Unprocessed Out：" プロセッシングしていない出力!? BASS POD PRO は私のサウンドを

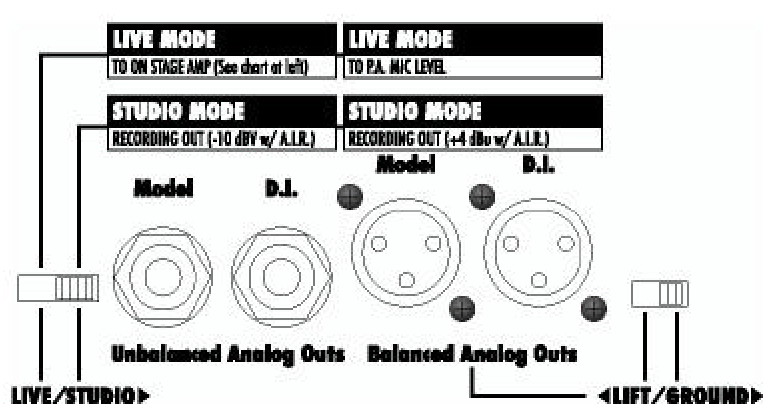
プロセッシングして SVT の壁のようなスピーカーからでるような音をつくりだしてくれるはずだと思っていたのに．．！”ご心配なく。その通りです。これは主に Re-Amping 向けに使われますが（Re-Amping の章を参照）、外部チューナーや外部機器への出力としても使用できます。BASS POD PRO の **Send** から外部エフェクト入力に接続し、出力を BASS POD PRO の **Return** に接続して下さい。この接続方法では BASS POD PRO での処理が行われる前にエフェ



クトがかかる為、Model と D.I.両方の出力信号にエフェクトがかかります。

“Post” Effects Loop：この-10dBV のアンバランスフォン端子を使用することで、BASS POD PRO に外部エフェクトを追加する事が可能になります。BASS POD PRO の **Send** から外部エフェクト入力に接続し、外部エフェクトの出力を BASS POD PRO の **Return** に接続して下さい。この接続方法では BASS POD PRO での処理が行われてからエフェクトがかかりますので、Model 出力のみにエフェクトがかかります。

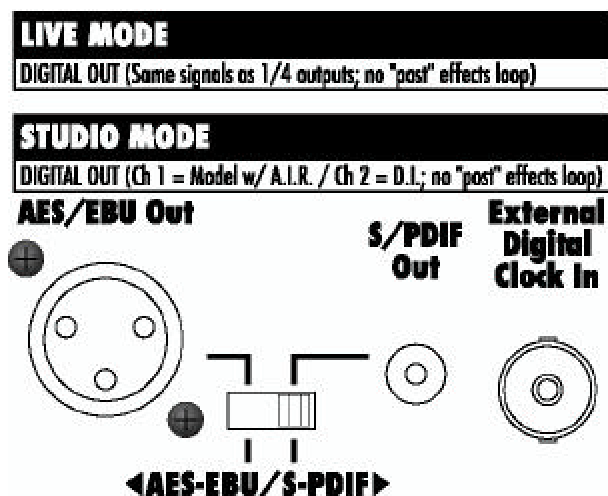
Analog Outputs：BASS POD PRO にはアナログ出力が 2 組ついています。Line6 のスピーカー/マイク/ルーム･シミュレーション用 A.I.R. プロセッシングされた信号がキャノン接続端子より +4dBu のバランス信号を送ります。フォン接続口も同様に-10dBV のアンバランス信号を送り、このレベルの機材との接続を可能にします。フロント･パネルにある Output②のツマミがこの出力のレベルを決定します。Live Mode でのキャノン出力のレベルには影響しないので注意して下さい（詳細は次の章を参照して下さい）。Channel Volume コントロールと同様、このツマミも最大に設定して最良の信号を得ることができます。Live/Studio スイッチを’Studio’の位置にしてあるかどうか、必ず



確認して下さい。

Digital Output ＆ Clock

BASS POD PROにはデジタル・クロック用の接続口と共に、AES-EBUとS/PDIFフォーマットの24ビット・デジタル出力がついています。



デジタル出力に接続する前に、セレクター・スイッチがAES-EBU（キャノンコネクター）あるいはS/PDIF（RCAピン）のどちらかにセットされていることを確認して下さい。Channel Volume⑪と Output⑤のツマミは共に、できるだけ高く設定して最大出力を出して下さい。Digital Out Gain(CABSとEQボタンを押しながらDRIVE⑨ツマミを回す)でデジタル出力レベルを上げることが可能です。”Post Effect Loop”はデジタル出力信号に影響を与えません。

External Digital Clock In端子はデジタル・ミキサーやレコーダーからのクロック信号を受けて、BASS POD PRO のデジタル出力をシステムにシンクします。フロント・パネルのDigital Sync⑳スイッチで BASS POD PRO 出力のサンプリング･レート(44.1KHz 又は48KHz)を決め、この出力を外部のクロック・ソースにシンクするかどうかを決定します（クロック・ソース出力のサンプル・レートはクロックを供給する機材によって決まります）。

デジタル・ミキサー/レコーダーのマニュアルを開いて、そのデジタル・クロックの構築について確認して下さい。ここに便利なやり方をいくつか紹介して既存のスタジオでBASS POD PROを上手に活用できるようにしたいと思います。

一般的に２通りの状況が考えられます。

✍ ①－お持ちのデジタル・レコーダー/ミキサーにクロック出力が付いている場合は（Digidesign社のPro Tools888、MotU 2408、ヤマハ O2Rデジタル・ミキサー等）、クロック･マスター（一般的に“Internal Sync”のような感じで呼ばれています）にして、BASS POD PROのDigital Syncスイッチ20を’External’にセットします。すると、BASS POD PROがレコーダー/ミキサーからサンプル･レートを引き出し、システムに完全にシンクしたデジタル信号を出力します。

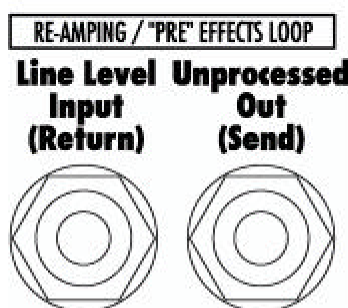
✍ ② －お持ちのシステムにクロック出力が付いていない場合（DigidesignのAudiomediaやDigi 001、Digital Audio Labs のCard D等）は、BASS POD PROのDigital Syncスイッチ⑳を44.1か48にセットします（EXTERNALではありません）。そしてお持ちのレコーダーがBASS POD PROから入ってくるデジタル入力にシンクするようセットして下さい。

この時、クリック音が聞こえる場合は、BASS POD PROがお持ちのシステムにシンクしていない信号を出力していること示しています。上記に示した２つの状況をもう一度読んで頂いてから、レコーダー/ミキサーの製造元カスタマー・サポート・センターに連絡を取りこの状況

がこのまま続くのかどうか確認して下さい。また、セレクター・スイッチが確実にAES-EBUかS-PDIFのどちらかにセットされていることを忘れずに確認して下さい。

RE-AMPING

BASS POD PROにはラインレベル用の2つの入出力フォン端子(-10dBVのアンバランス信号)があります。このライン入力を使用する時には、フロント・パネルのスイッチ③が「Line Input」の位置にセットされていることを必ず確認して下さい。



さて、この端子を使って何ができるのでしょう？いろいろあります。

Re-Amping

P.9のRe-Ampingを御参照下さい。

HardwareAmp Farm

P.9〜10のHardwareAmp Farmを御参照下さい。

Non-Bass Processing：P.10のNon-Bass Processingを御参照下さい。

Tuner Output：P.10のTuner Outputを御参照下さい。

Wireless Connection：P.10のWireless Connectionを御参照下さい。

“Pre” Effects Loop：P.10~11の“ Pre ”Effects Loopを御参照下さい。

Radiation Alert（放射線への警告）

スタジオ内にコンピューターがある場合は、重要なのでよくお読み下さい。お持ちのギターがシングルのピックアップを使用していると特に、ギター側で使用しているコンピューター・モニターからひどいノイズを拾うことがよくあると思います。CRT ディスプレイは結局、特別な目的の為の光粒子を一日中打っている放射線マシンガンのようなものです。オーディオ信号においては、バズ音やハウリング音として聞こえてくるでしょう。ギターをCRTから極力離し逆にむけ、コンピューター・ディスプレイに直接向けないようにします。これで問題を最小限に抑えることができるでしょう。CRTから出るバズ音で悩まされているなら、下記を実践するといいでしょう。

レコーディングするトラックをセットアップしてpre-rollをスタートさせます。→コンピュータ

ー・モニターの電源スイッチをオフにします。→ギターのパートをレコーディングします。→レコーディングを止めます。→モニターの電源を再度オンにします。→再生し、バズ音が入ってないかどうか確認します。

LIVE SETUPS

BASS POD PRO を、パワー・アンプとスピーカー・キャビネットと一緒にプリアンプとして使用したり、ハウス･ミキサーや PA またはその他のライブ演奏用のサウンド・システムに直接出力しようと考えている場合に、セットアップする際に知っておくべき点をここに挙げます。

Live/Studio Mode スイッチ

まず BASS POD PRO のリアパネルを確認し、Live/Studio Mode スイッチが Live の位置にセットされているかどうか確認して下さい。これで BASS POD PRO の出力とシグナル･プロセッシングの内容がきまります。

INPUT

BASS POD PRO には入力端子が 2 つ付いています。1 つはフロントパネルのベース入力、そしてもう 1 つはリアパネルのライン入力です。フロント・パネルにある Input Select スイッチ 2 を動かして、使用する入力を選択します。

Bass Input

ベース・アンプやプリアンプのベース入力と同じです。ケーブルの片方の端をベースに差込み、もう片方の端をここに差し込みます。フロント・パネルの Input Select スイッチ 3 が必ず Bass Input 位置にセットされているかどうか必ず確かめて下さい。

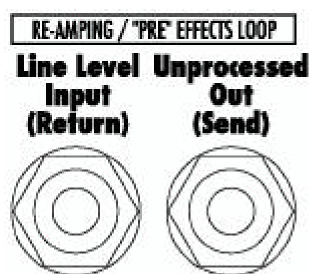
Line Level Input

リア・パネルにあるライン入力は“ Re-Amping/”Pre” Effects Loop ”と書かれた枠の下にあります。この端子は BASS POD PRO を使ってプロセッシングするライン入力用に設計されています。ミキサーを生のベース音の一部として使用し、この出力を BASS POD PRO に送りたいと考えている時に便利です。また、多くのワイヤレス・システムにはライン出力がついています。これをリアパネルにある BASS POD PRO のライン入力します。フロント・パネルの Input Select スイッチ③が必ず Line Input の位置にセットされているかどうか必ず確かめて下さい。

OUT PUT

BASS POD PRO にはアプリケーションの幅、様々な機材にも対応できるようにいくつかの出力がついています。リア･パネルに向かって左から順にひとつひとつ見ていくことにしましょう。

Unprocessed Out：P.14〜15 の Unprocessed Out を御参照下さい。

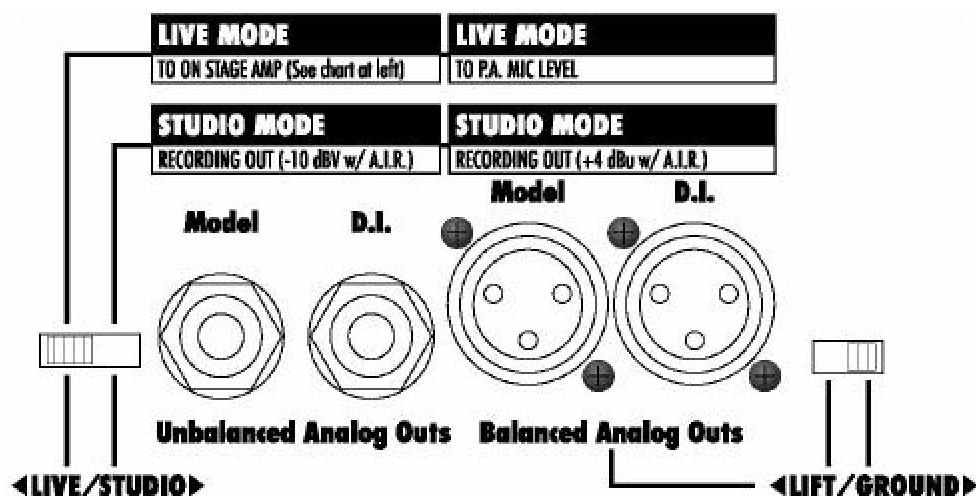


外部チューナーをご使用の場合この出力に接続して下さい

"Post" Effects Loop：この-10dBV のアンバランスフォン端子を使用することで、BASS POD PRO の信号チェーンに外部エフェクトを追加する事が可能になります。BASS POD PRO の **Send** から外部エフェクト入力に接続し、外部エフェクト出力を BASS POD PRO の **Return** に接続して下さい。この接続方法では BASS POD PRO での処理が行われてからエフェクトがかかるので、Model 出力のみにエフェクトがかかります。

Analog Stereo Outputs

BASS POD PRO にはライブ・モードで使用する出力が 2 組ついています。片方がステージ上のパワーアンプとキャビネットに出力し、もう片方がハウス・ミキサーや PA に直接別々に送信します。Live/Studio スイッチは必ず'Live の位置にします。



オンステージ・パワーアンプとスピーカー・キャビネットをこのフォン出力から接続して下さい。これでキャノン出力にでてくるスピーカー・シミュレーションがなくても、アンプ/エフェクト・トーンを送ってくれます。フロント・パネルにある Output⑤のツマミがこの出力のレベルを決定します。最良の信号を得る為に、このツマミを高く設定してパワー・アンプの出力を低くして下さい。この逆は音質的にお勧めできません。または両方とも高くセットして大きなボリュームにします。ライブ・モードではフォンの D.I.出力を使用することは殆どないですが、ご使用になる場合は出力レベルがフロントパネルの OUTPUT ツマミに影響される事を覚えておいて下さい。
キャノン出力は信号をハウス・ミキサーや PA に送信します。これはマイクレベルである為、ステ

ージからハウス・システムに流したり、PA やミキシング卓のマイク入力に送るマルチケーブルボックスに差し込むものです。グランドループのハム・ノイズが出てきそうな時は、Lift/Ground スイッチでグランドを持ち上げてみて下さい。

フォン Model 出力の " **Voicing** "

BASS POD PRO は、ライブ・モードにしておくとオプション機能として様々なスピーカー・キャビネットに対応させることができます。初期設定では１台（または複数台）のキャビネットをドライブしているパワー・アンプに接続する設定になっており、フォン出力からのライブ・モードのサウンドをうまく調整して、動作させているスピーカー・キャビネットに適した音質をにします。他の音質を得る場合は " Voicing " モードを変えて下さい。これを変更するには BASS POD PRO の電源が立ち上がる間、Save ボタンを押し続けます。BASS POD PRO のディスプレイにはいずれかのモードの文字表示されますので上下の矢印を使ってモードを選択して Save ボタンを押して下

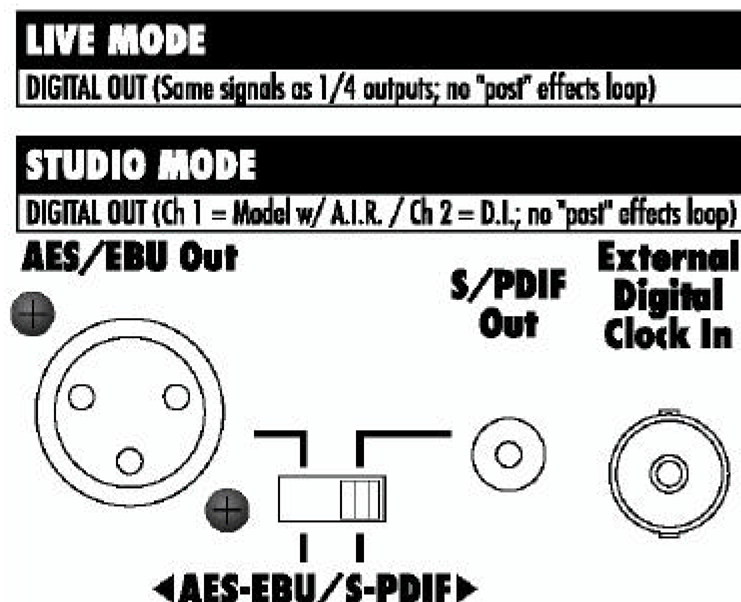
Mode...	We call it...	Because...
A (default)	Standard Tuning	ideal for well-tuned full range systems
B	Bass Boost	try this with small-diameter speakers
C	Mid Boost	try this to enhance mid presence
D	Treble Boost	try this when driving bass-heavy cabs

さい。

選択した " Voicing " は BASS POD PRO が記憶しているので、電源を入れる度に設定しなおす必要はありません。特別な状況に対して臨時設定をおこなった場合は通常の設定に戻すことを忘れないで下さい。

Digital Output & Clock

BASS POD PRO には、デジタル・クロック対応の接続と同様、AES-EBU と S-PDIF フォーマットの 24 ビットデジタル出力が両方ついています。



デジタル性に強くこだわらない限り、デジタル出力やデジタル・クロックをライブのセットアップに使用することはないでしょう。デジタル出力、デジタル・クロックに関する詳細は前述のスタジオ・セットアップの章にあります。

PEDAL POWER

BASS POD PRO には Line6 Floor Board と FB4 といったいくつかのフット・コントロール・オプションがあります。この後の Chapter で全詳細に関して説明していますが、ここでは FB4 について説明しておきましょう。FB4 は 4 つのボタンで構成されるフット・スイッチで、BASS POD PRO についている 4 つのメモリーを選択することができ、エフェクトのスピードやテンポの Tap コントロールが可能です。機能的には FB4 の上位機種にあたる Line6 Floor Board では、BASS POD PRO のチャンネルにプログラムされているどのサウンドもハンズ・フリーで選択でき、Wah ペダル、ボリューム・ペダル、Stomp Box 型の BASS POD PRO エフェクト On/Off 個別切替、そしてチューナー・コントロールもついています。どの Line6 Floor Board コントローラーを選んだ場合も、BASS POD PRO のリアパネルにあるペダル・ジャックに差し込んでください。標準的な MIDI コントロール・ペダルでも BASS POD PRO をコントロールすることができます。

POD TAKE OVER

これまでの話では BASS POD PRO を使ってパワー・アンプとスピーカー・キャビネットを動作させようとしてきました。インゲン豆の形をしたオリジナル BASS POD は、アンプのトーン・シェーピングとしてベース・アンプにもよく使われています。ご希望なら BASS POD PRO でもこれが可能です。説明しましょう。

通常、BASS POD PRO のフォン出力に接続し、Live/Studio スイッチを Live の位置にします。これにより、スピーカーのシミュレーション、Moving Air、マイク等のデジタル信号プロセッシングが使用できなくなりますが、実物のスピーカーがベースアンプの中に入っている為、シミュレーションを行う必要がなくなります。（もちろん、時々小さなバック・オープン型のコンボが、Studio モードでいい音を出す時がありますから、セットアップ時には両方とも試してみる必要があります。）この際 BASS POD PRO にヘッドホンは接続しないでください。ヘッドホンの音質を良くしようとするため、Live/Studio スイッチを無効にし余分なプロセッシングを増やしてしまうからです（アンプからの音質が低下します）。BASS POD PRO の MODEL 出力からギター・ケーブル（標準フォン）でベース・アンプ入力に接続して下さい。アンプにエフェクト・センド/リターンがついている場合はアンプ入力につなぐ代わりにリターンにつないでみましょう。リターンは通常アンプの入力ゲイン･ステージ後にきますから、よりクリーンな音を得る事が出来るでしょう。リターンは BASS POD PRO のライン出力と相性がよく、ヒス音やいらないノイズを最小に押さえてくれます。

フォン Model 出力の “ **Voicing** ”

何ページか前にも説明しましたが、Live Mode にすると、様々なシステムに合わせてオプション機能を使うことができます。初期設定では BASS POD PRO をバック・クローズタイプのキャビネットの前につなぐようになっています。（Eden とホーン付 SWR 4x10 を元に音作りを行いました。ホーンボリュームの設定は 12 時の位置。）別のスピーカーキャビネット・システムにつなぐ場合は " Voicing " を変更して下さい。変更するには、BASS POD PRO の電源を立ち上げている間、Save ボタンを押し続けてください。BASS POD PRO のディスプレイにアル

Mode...	We call it...	Because...
A (default)	Standard Tuning	ideal for well-tuned full range systems
B	Bass Boost	try this with small-diameter speakers
C	Mid Boost	try this to enhance mid presence
D	Treble Boost	try this when driving bass-heavy cabs

ファベットが表示されますので、上下の矢印を使ってモードを選択し、Save ボタンを押します。選択した " Voicing " Mode は BASS POD PRO が記憶しているので、電源を入れる度に設定しなおす必要はありません。特別な状況に対して臨時設定をおこなった場合は通常の設定に戻すことを忘れないでください。

POD Output Level: A Word of Caution

BASS POD PRO の Output Level コントロールは殆どすべての機材をドライブするのに充分なゲインでセットアップされています。従って、ベース・アンプの許容入力を越えてしまうほどのレベルに設定すると余計な歪みが加わり、BASS POD PRO 本来の音がわからなくなってしまいます。初めは一番低いところで設定し、徐々に上げていきましょう。

Tuning Your Amplifier

BASS POD PRO でベース・アンプの役割をさせたい場合、アンプをニュートラルな状態から始めて下さい。" ニュートラルって何ですか？ "　そうですね．．．もしもアンプにボリューム・コントロールがひとつしかなかったら低く設定して " 澄んだ音 " にして下さい。これで BASS POD PRO の音が余計な物を加えず聞く事が出来ます。入力のボリューム・コントロールに加えてマスター・ボリュームがある場合、最初のボリュームがマスターボリュームをオーバードライブすることが無いよう設定して下さい。これはアンプによって変わることもありますが、通常は澄んでいてディストーションされていない音を得るには入力ボリュームをマスター・ボリューム以下に設定します。パッシブ・トーン・コントロールがあるなら、MID コントロールを最大に設定して高域と低域コントロールを 0 に設定して見てください（これは実際、殆どのアンプにおいてフラットなイコライジング幅となります）。アクティブ・トーン・コントロールでは異なりますが、アンプをオーバードライブしないように気をつければ BASS POD PRO の音に色を加え過ぎずに済みます。慣れてきましたら、あなた好みの設定に変更して下さい。アンプ入力をオーバードライブしないよう BASS POD PRO の出力レベルを設定して下さい。Live/Studio スイッ

チを Live の位置するのを忘れずに。またエフェクト・リターンがついているベース・アンプまたはパワー・アンプの入力に直接つなげる端子があれば、BASS POD PRO の出力をその接続にそのままつなぐことができます。アンプのトーン・コントロールをバイパスし、BASS POD PRO の音を塗り替えてしまうことを避けます。

POD Effects

Deep Editing

Emagic 社製の SoundDiver、MIDI エディター/ライブラリアン・プログラムがダウンロード可能です。このプログラムは Macintosh と Windows コンピュータの両方に対応しています。そして BASS POD PRO のコマンド・ステーションでコンピューターを読み取ります。“ リモート・コントロール ” によって BASS POD PRO のフロントパネルで行われている作業のすべてを完了することができます。保存、サウンド選択等の機能と、アンプモデルやエフェクト・パラメーターへのアクセス機能なども搭載しています。詳細については Deep Editing & MIDI Control を参照して下さい。エフェクトの章にある基本的な操作手順を読み終えたら、BASS POD PRO の MIDI コネクションに関しての説明もお読み下さい。

POD Onboard Effects

Amp Models 機能に加え素晴らしいサウンドエフェクト機能も内蔵されています。どのエフェクトにするかはエフェクト・ノブ⑭で選択して下さい。エフェクトを選択すると、BASS POD PRO はエフェクトのパラメーターをあらかじめ調節し、瞬時に素晴らしいサウンドを出すことができます。Effect Tweak⑬ノブを回すことでエフェクトの特性を変更させることが可能です。

Compressor：コンプレッサー機能は音を圧縮して、柔らかい音を大きめにし、大きな音を大きくなり過ぎないように調節してくれます。増幅した音をなめらかに保ってくれるので屋外でのライブや、演奏音のレベルを一定にそろえたい時などに大変役立つ機能です。演奏音がある一定の値以上になるとコンプレッサーが作動し、ボリュームの変動を減少させます。BASS POD PRO のコンプレッサーは、最高峰のスタジオで使われている LA-2A チューブ・コンプレッサーを研究することにより開発されたものです。他のコンプレッサーのようにレシオ、アタック、リリース等の細かいセッティングの必要がなくシンプルになっていますので、大型フロント・パネルのつまみをまわしてお好きなコンプレッションの量を設定するだけです。（コンプレッサー・レシオを下げるにはつまみを時計回りにまわし最小値にあわせます。反対に、上げるには最大値まで時計回りにまわします）LA-2A のすばらしいところは、ハイ・コンプレッション・レシオでもクリアーなトーンを持続することが可能な事です。BASS POD PRO コンプレッサーも同じようなデザインを活用していますので、コンプレッションの量にかかわらず弦音に忠実な音を楽しむことができます。Compress のつまみは LA-2A のようにコンプレッサー・スレッシホールドを調節します。（Sound Diver ソフトを使ってアタック、ディケイ、レシオをコントロールすることも可能です)Compress つまみを最小にしてしまうとコンプレッション効果がなくなります。

Octave Down：Classic BossOC2 オクターブ・ペダルをモデルにした音です。Effect Tweak つまみで原音とエフェクト音を調整します。4 弦ベースでもローの B 音を出すのが可能になります。低域でプレイすればする程オクターブエフェクトが原音をトラックすることが難しくなります。

Analog Chorus：このコーラスは昔の Roland CE-1 のようなクラシックな音に非常に近い音を出します。Effect Tweak つまみをまわして少量から目一杯のコーラス・セッティングを調節できます。

Danish Chorus：TC Electronics の SCF Stereo Chorus/Flanger モデルです。Effect Tweak つま

みで、コーラスセッティングを調節して下さい。

Orange Phase：MXR Phase90 をベースにしたものです。Phase90 の音は他のフェイザーに比べて落ち着いているので全体の音にしっくりと馴染みます。つまみひとつでスピードが変えられます。Effect Tweak を使って Phase90 と同じような音出しが可能になります。

Gray Flanger：フランジャーは 70 年代のレコーディングで知られている " ジェット機 " の音に似ています。本来、エフェクトは余り使われず、殆どの場合エンジニアはテープ･リールの一部に指でプレッシャーを与えながらほんの少し速度を上げたり下げたりしてエフェクトをかけていた為、あまり使われませんでした。指で押しているテープ･リールの一部をフランジャーと言うところからこの名前はきています。電気的にエフェクトをかける事が出来るようになってからはとても良く使われる様になりました。Gray Flanger は Classic MXR Flanger のモデルです。温かみのあるサウンドが作れ、デザイン的にもユニークです。Effect Tweak つまみの調節だけでちょっとした音の変化を楽しめます。

Tron Down& UP：Mu TronⅢのオート・ワウとトリガード・フィルターのエフェクトを TronDown/TronUP の選択で楽しむことができます。Effect Tweak によって、Tron 調節が出来ます。

S&H：ビンテージもの Oberheim V.C.F をモデリングとした音です。（Sample&Hold エフェクトの一例です）このフィルターを使って長いサスティン効果を楽しんで下さい。Effect Tweak でスピードコントロールをします。

S&H+Flanger：Sample Hold,と Gray Flanger の様な感じで音調をアレンジ出来ます。Effect Tweak で Sample &Hold スピードコントロールします。

S&H+Danish Driver：Sample Hold エフェクトと Danish Driver の組み合わせです。Effect Tweak で Sample &Hold スピードコントロールします。

Bass Synth：Boss の Bass Synth を少し改良したものです。Effect Tweak で Decay ノブのようにエフェクトをタイトにカットしたり、ゆっくりとフェードアウトする事が出来ます。ワウペダル(BASS POD PRO オプションの Floor Board フット・コントローラー)とは併用出来ません。

Danish Driver：t.c.electronics の Booster, Line Driver, Distortion をモデルにした音です。歪みの量にかかわらずスムーズにディストーションし、100Hz の低音を目一杯ブーストします。Effect Tweak で、ディストーションを調節して下さい。

Large Pie：Big Muff Pi をベースにしたモデルです。Danish Driver よりも、クラシックなファズベースになります。Brit Major, Brit Class A, Stadium の様な低域のヘビーなアンプに特に有効です。Effect Tweak で調節して下さい。

Pig Foot：Hogs Foot をモデルにした音です。Hogs Foot はベースブースター/レベルドライバーであり Effect Tweak でディストーションを調節出来ます。

Rodent：Rat は愛用者の多いディストーションですが、BASS POD PRO の Rodent も同じ様に多くの人に好まれるでしょう。Effect Tweak で調節して下さい。

Creating & Storing

Using the Manual Mode Features

マニュアルモードで使用する際には、全ての調節機能がアクティブになり、BASS POD PRO の音はノブの設定をそのまま反映します。マニュアルモードがオンになると、⑥マニュアルボタンが点灯します。ノブを回して好きな音を探し、巻末のシートに書き留めて本体に保存します。

Using the Channel Program Memories

お気に入りの音を 36 チャンネルのメモリーの好きなところへ簡単に保存することができます。SAVE ボタン⑱を押して UP/DOWN⑦ボタンを押して BASS POD PRO の９桁のバンク内 A、B、C、D のメモリー・ロケーションの中から保存先を選択します。保存されている音の 1 つを選びセーブボタンを再度押すと、ライトの点滅が止まり選択した保存先に保存されます。前に保存されたものは上書きされます。サウンドが保存された後は、アップ/ダウンのボタンを押して保存先を呼び出して音を再生します。

注：全てのライトが点滅し始めた後、作業を中止したい場合はタップ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート、MIDI ボタンの何れかを押すと保存をキャンセルします。（またセーブモードを押した後に 5 秒間どのボタンも押さなければ保存は解除されます）。

TONE TRANSFER

POD Sounds on the Web

BASS POD PRO でサウンドの世界をコンスタントに拡張していくことができます。Line 6 社 HP " www．Line6．com " 上にある " Tone Transfer Web Library " にアクセスすれば、ライン 6 ユーザーによって世界中に広がりつつある BASS POD PRO 専用のサウンド・コレクションが見つかります。

Sound Diver ソフトとこの取扱説明書がサウンドの保存・構成・移行の際に役立ってくれます。

Swapping POD Channels with Friends

例えば、素晴らしい音を作りそれをチャンネル A のバンク 1 に保存します。曲を作るにはこの音を使わなければなりません。しかしサウンド･プログラマーのシートをコピーするのを忘れてしまい、どこにも書き留めなかったとします。このような場合、セーブボタンをホールドしながら BASS POD PRO のノブのどれか 1 つを回して下さい。（この時アウトプット･レベルのノブは押さないで下さい。これはプラグラムへ保存されません）。セーブボタンを押し続けても設定が変わったり、セーブモードへ行く心配はありません。その代わりに、チューナーボタンの下の矢印が点灯します。矢印はノブを回す方向を指示しており、その方向に廻すと保存されているコントロール設定になります。ノブの位置が保存設定とぴったり合うと、両方のライトが点灯します。Amp Model/Effect ツマミは左右の矢印を表示する機能はありません。正しい位置にツマミを持っていった時に２つの矢印を一緒に点灯させるだけです。この作業を全てのノブで終え、タップテンポのスピードも書き留めておけば、同じ設定を他の BASS POD PRO で再現する事もできます。すべて正しく行われているか確認するため、ノブが設定された後にマニュアルモードへ転換し、音が変わっているか聞くこともできます。

わかりにくいようでしたら MIDI ケーブルを使って第 9 章の Deep Editing & MIDI Control を参

照し、転送することも出来ます。またコンピューターで音を相互に転送する事も可能です。Macintosh とWindowsの両方にEmagic社の SoundDiver ソフトウエアは対応しています。BASS POD PRO の Tools CD を使うこともできます。実際、“ www．Line6．com ”上の Tone Transfer Library には使用可能な BASS POD PRO のサウンドが満載です。

Edit Mode

プログラムされている音にベースの音をもう少し加える事も簡単に出来ます。 UP/DOWN ボタンでメモリーからの音を呼び出し、BASS ノブを回して自動的にエディットモードに入ります。すると“ Edited ”の文字が点灯し、保存されたチャンネルのメモリーに変更を加えたことを知らせます。そして SAVE ボタンを使って保存します。このように保存されたチャンネルを編集する機能をエディット・モードと言います。編集を行うには、セーブボタンを押してライトが点滅したら再度セーブボタンを押します。すると音は現在選択しているメモリーに保存されます。保存先を変更したい場合には、SAVE の文字が点滅したらアップ/ダウンボタンを押して保存先を選択します。編集した音を保存しない場合は、SAVE ボタンは無視して下さい。SAVE ボタンを押した後に保存をキャンセルする場合は、タップ、マニュアル、チューナー、ノイズゲート、MIDI ボタンの何れかを押して保存の作業を中止します。編集を保存する前にチャンネルを変更してしまった場合は、変更は消去されます。

Customizing Amp Models & Effects

“ Amp Models ”と“ Effects ”ツマミを使って呼び出したものをカスタマイズすることができます。この機能で、あなただけのオリジナルサウンドを BASS POD PRO に入れておくことができます。ツマミ 1 つ回すだけでいとも簡単に機能してくれます。Customization Mode になり、Amp Models と Effects 設定を変更することができます。次ぎに、それぞれのモジュールについて説明します。

Controls affected by the Amp Models Knob
Amp Model
Drive
Bass
Middle
Treble
Chan Vol
Cabinet Model
Post-Model EQ Frequency
Post-Model EQ Shape
Post-Model EQ Gain
Compressor Threshold (set by Compress Knob)
Compressor Ratio*
Noise Gate On/Off
Noise Gate Decay *
Amp Model Mid Sweep*
Volume Pedal Minimum *
Volume Pedal Location (before or after the Amp Model) *
Wah Minimum *
Wah Maximum *

Amp Models で設定できるもの　※SoundDiver ソフトウエアまたは MIDI 使用時のみ設定できます。

同様に Effects をまわし、パラメーターの設定を行います。Amp Models と Effects の 16 個のポジションにて様々なカスタマイズ設定を保存することができます。Chorus, Tremo10, Synth, etc...というように

様々なバージョンをお試し下さい。

選択した Amp Model は簡単に保存し、呼出すことが可能です。例えば Brit Major を使って各種設定を保存すると Brit Major の位置につまみを合わせるだけで同じセッティングを呼び出すことが可能です。Jazz Tone や他の場合も同様です。どの Amp Model や Effect を使用しているかわからない場合は、Save を押したまま、Amp Model か Effect を回して下さい。正しい位置に来た時にチューニング・インジケーターの矢印が光ります。お手持ちの Amp Model がエクストラ機能モデルの一つだった場合は、TAP ライトが点灯し続けます。

Activating Customization Mode：カスタマイズのモードにするには、お好きな Amp や Effect の設定を Amp Models または Effects のノブに保存します。これらの設定はプリセットや独自の編集、また SoudDiver や Web 上からダウンロードして呼出す事も出来ます。次に、Save ボタンを押したまま Manual ボタンを押します。すると Save、Manual、A、B、全てのボタンが点滅します。これで操作可能状態となり Customization モードに入れます。Up/Down ボタンで A チャンネルを選択すると AmpModels 用ノブに設定を保存します。B チャンネルを選択すると Effects のボタンに保存します。最後に Save ボタンを押して確定します。これらのステップをまとめてみます。

1. BASS POD PRO で保存したいアンプ、エフェクトの設定を呼出します。
2. Save を押したまま、Manual を押す。Save、ManualA、B が点滅します。
3. Use Up/Down の矢印で A(Amp)または B(Effects)を選択する。
4. 最後に Save を押し保存完了。キャンセルするには“マニュアル”ボタンを押します。

Memory Reset:

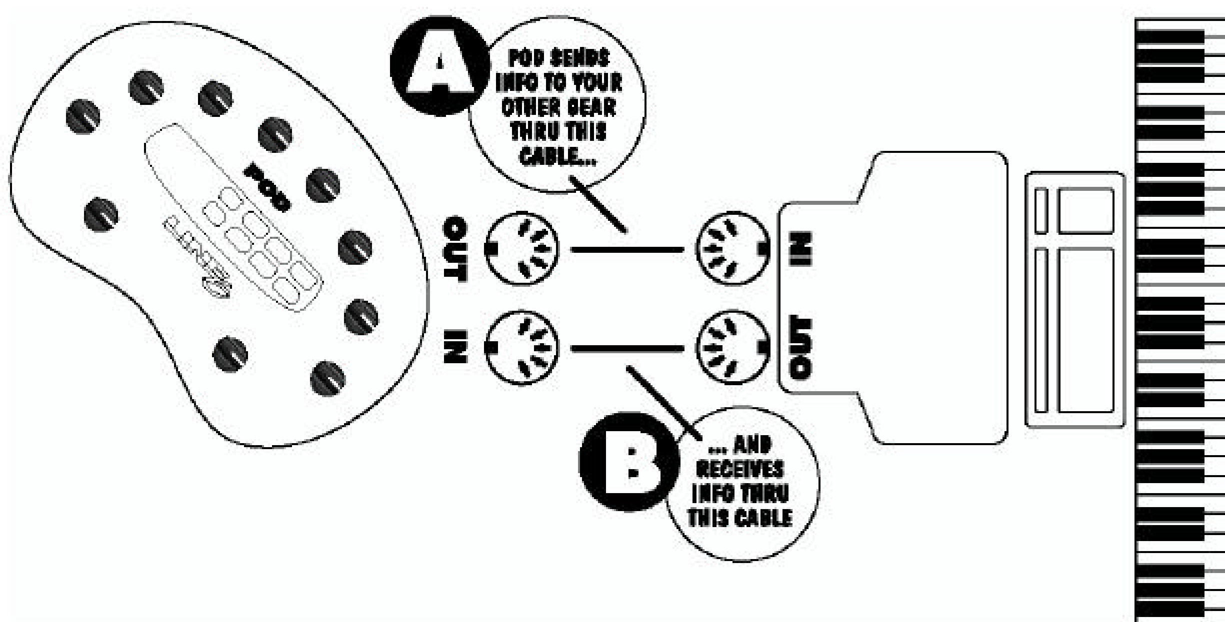
メモリーしたデーターを初期状態にリセットしたい時に使用します。Up/Down ボタン押したまま、電源をオンにすると初期状態に戻ります。

注意）アンプやエフェクトの設定など、メモリーした全てのチャンネルが消去されます。リセットする前に消去しても良いかどうか必ず確認して下さい。これは全てのカスタム・サウンドを消去する為、充分に考えた上で作業を行って下さい。

Deep Editing & MIDI Control

What's MIDI?：MIDI（楽器用デジタル･インターフェース）は楽器間のインフォメーションを交換するコミュニケーション･プロトコールのデザインです。MIDI により他の機器をコントロールしたり、複数台の機器を一緒に連結して使用することができます。

In/Out：BASS POD PRO には 2 つの MIDI 端子が付いています：In/Out。MIDI ケーブルを使って MIDI 機器と BASS POD PRO を接続します。それぞれの接続は一方通行になっています：情報は 1 台の機器のアウトからもう 1 台の機器のインへ送られます。また受信することも出来ますが、その場合は、もう１本ケーブルを接続してインからアウトに接続します。



MIDI Channel：MIDI は 1 本の MIDI ケーブルを通って異なる 16 チャンネルの情報を送受信します。MIDI ケーブルのチャンネルはプログラムが保存されている BASS POD PRO のチャンネルとは異なります。BASS POD PRO を（テレビのチャンネルを選ぶように）特定の MIDI チャンネルに合わせた際、MIDI 機器もその MIDI チャンネルに合わせて同じチャンネルに送信することが可能です。BASS POD PRO の MIDI チャンネルを MIDI ボタンを押して設定します。ボタンが点灯して表示されている 1 桁の数字は BASS POD PRO の現在のチャンネルを表します。16 の MIDI チャンネルの中から違うチャンネルを選択する場合は、アップ/ダウンの矢印をを使って下さい。BASS POD PRO はチャンネルの数が 2 桁（10〜16）になると 1 桁の数字の右に点を表示します。ですから“2”と表示されたら 12 チャンネルを意味します。

MIDI チャンネルを A に選択する事で全てのチャンネル（オムニモード）を聞く BASS POD PRO を設定する事もできます。オムニモードを使用している時、BASS POD PRO はチャンネル 1 で送信します。

MIDI Messages：MIDI はいくつかの異なるメッセージを異なる目的に合わせて送ることができます。

MIDI Program Changes：プログラム変更のメッセージは設定や音色の変更を機器に送ります。BASS POD PRO において、プログラム変更はチャンネルから他のチャンネルへの変更を意味し、BASS POD PRO が 1 と変更番号を受けると、バンク 1 のチャンネル A を選択します。2 の変更番号はバンク 1 のチャンネル B となります。詳細は Appendix C を参照して下さい。

MIDI Controllers：MIDI コントローラーのメッセージはリアルタイムで外部機器のパラメーターをコントロールする事ができさす。例えば、MIDI コントローラーを使用して BASS POD PRO Drive コントロールの設定を変えたり、リバーブ・レベルを変更したりすることができます。それぞれの BASS POD PRO のパラメーターは MIDI コントローラーへマッピングされる為、BASS POD PRO の全てのコントロールを行う事ができます。Appendix D に BASS POD PRO のパラメーターとコントローラーに関しての詳細が記載されています。Floor Board のワウとボリューム･ペダルも MIDI 経由で MIDI コ

ントローラーのメッセージを送信します。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最小限に押さえる為にBASS POD PROのセッティングをゆっくりと変えるようにして下さい。

MIDI Sysex Commands：システム・エクスクルーシブ･メッセージとは機器固有の特殊なメッセージを意味します。Sysex は他の機器のメモリーにプログラムされたサウンドを送信したり、機器から新しいサウンドを受け取ります。このデーターの交換は“ダンプ”と言われ、BASS POD PRO Tools CD に入っている Emagic 社 SoundDiver ソフトウエアの Sysex コマンドを使っています。BASS POD PRO のプログラムをバックアップと編集の為にダンプしたり、コンピューターから BASS POD PRO へプログラムを送信します。また 2 つの BASS POD PRO が Sysex 経由で直接データを交換するもできます。その際は MIDI ケーブルを使用して下さい。MIDI ケーブルをもう１台につなげて、BASS POD PRO の音を、また BASS POD PRO の音と交換することができます。詳細に関しては以下を参照して下さい

Transferring Sounds Between Bass PODS：BASS POD PRO から音を転送するには、標準 MIDI ケーブルと、BASS POD PRO が必要になります。ギターPOD では転送できません。受信側の BASS POD PRO の MIDI　IN を送信側の BASS POD PRO の MIDI　OUT へ接続します。2 台の BASS POD PRO の MIDI ボタンを押し、どの MIDI チャンネルに設定されたかを確認します。UP/DOWN を使ってそれらを同じチャンネルに設定して下さい。

Emagic 社 SoundDiver Software

Emagic 社 SoundDiver にはエディター/ライブラリアン･プログラムが含まれています。SoundDiver はコンピューターに BASS POD PRO のサウンドを保存して、スクリーン上で BASS POD PRO のサウンドを編集します。CD にはインストールの方法とエレクトロニック･ユーザー･ガイドが付いていて、その中には Emagic 社のテクニカル･サポート･サービスに関しての案内も含まれています。SoundDiver を使うにはコンピューターに MIDI インターフェースを付ける必要があります。同様に、ソフトウエアのラインと音楽録音用のハードウエアも必要になります。

Other Things You Can Do With MIDI

サイトよりダウンロード可能な“Emagic Sound Diver”ソフトを使って BASS POD PRO のサウンドを編集、保存したり、BASS POD PRO/BASS POD 同士の接続に MIDI を使えることなどの他にも MIDI はユーザーのニーズに応えてくれるのです。

Changing POD Channels With MIDI Program Changes：

MIDI 経由で行う基本的な事はチャンネル変更です。MIDI プログラムの変更メッセージを送る他の機器やフットコントローラーを使って変更を行うこともできます。MIDI アウトを BASS POD PRO の MIDI インに接続して、両方の機器の MIDI チャンネルが同じになるように設定します。そして、プログラム番号や選択チャンネルに関しての詳細は Appendix C を参照して下さい。マニュアル･モードとチューナーは MIDI プログラムのメッセージで選択することができます。MIDI プログラム変更のメッセージを MIDI シーケンサーから BASS POD PRO へ送信そして、シーケンサーの同期信号で自動的にサウンドを変える事も可能です。MIDI を経由してコントロール・パラメーターを変える時の“Zipper”ノイズを軽減するには BASS POD PRO の設定を急激に変えるのではなく、徐々に変

えるようにします。

Tweaking POD Tones with MIDI Controllers：MIDI フェーダーボックス付 MIDI コントローラー、及び MIDI シーケンサーお持ちでしたら、全てのパラメーターを MIDI によってコントロールすることができます。詳細に関しては Appendix D を参照して下さい。

Full MIDI Automation of POD：MIDI シーケンサーで BASS POD PRO を使う時は、MIDI コントローラーのメッセージを使ってパラメーターを自動操作する事ができます。これにより Por Tools TDM システムを使わずにプラグインソフトウエアやアンプファームのようにパラメーターを自動制御する事ができます。BASS POD PRO のフロントパネルのノブは適切な MIDI コントローラーの情報を送ります。（オプションの FLOOR BOARD フット･コントローラーのワウとボリュームペダルで行うのに似ています）MIDI シーケンサーに沿って BASS POD PRO を通り MIDI トラックへ録音することができます。

MIDI コントローラーの自動操作をする為に、シーケンサーに MIDI トラックを設定して、BASS POD PRO の MIDI アウトから送られる信号を録音します。そして、BASS POD PRO の MIDI 出力を受ける MIDI トラックを設定し、シーケンサーの録音を始めます。BASS POD PRO のドライブノブをゆっくりと 1 番上まで上げて、その後シーケンサーの録音を行いながら 1 番下まで下げます。シーケンサーで BASS POD PRO の MIDI トラックに録音されたデータを調べて下さい。MIDI コントローラーの#13 メッセージが録音されたの確認できます。これは BASS POD PRO のドライブ･パラメーターへアサインされたコントローラーです。BASS POD PRO を使って演奏しながら録音された MIDI トラックを再生します。（又は BASS POD PRO を通り録音されたダイレクトのベース信号を再生します）。すると MIDI トラックへ録音したドライブの変更を聞く事ができます。フロントパネルのコントロールからアクセスできない BASS POD PRO のパラメーター自動操作は、（例：リバーブトーン）。MIDI コントローラーのハードウエア又は、オンスクリーン･フェーダー若しくは他のコントローラーを搭載にコンピューターのシーケンス･ソフトをご利用下さい。BASS POD PRO パラメーターをオート化するのは、フロントパネル・コントロールからでは不可能です（リバーブトーン同様）。ハードウェアの MIDI コントローラーをしようするか、オンスクリーン・フェーダーを付けるか、MIDI シーケンサーのソフトに入っているほかのコントローラーを使用して MIDI コントローラーの番号を BASS POD PRO の MIDI チャンネルに正しく移します。シーケンサーにこだわっている人なら、古いイベント・リストやグラフィックで編集する WINDOW を使って MIDI オート･データをマニュアルで作ることも可能です。MIDI 経由でパラメーターのコントロールを変更する際に、ノイズを最大限にするために BASS POD PRO の設定はゆっくりと変更して下さい。

附属ソフト SoundDiver について

Step-by-Step With SoundDiver

BASS POD PRO で SoundDiver ソフトウエアを使う為には、MIDI インターフェイスが必要です。あらかじめ MIDI インターフェイスをコンピュータに繋ぎソフトウエアをインストールして下さい。次の手順で、SoundDiver や、BASS POD PRO の音をコンピューターに転送します。

1. 接続:

BASS POD PRO をコンピューターの MIDI インターフェイスに繋ぎます。2 方向通信の為 MIDI の IN と OUT を使用します。これで、BASS POD PRO とコンピューター間の音の転送が可能になります。BASS POD PRO の OUT からコンピューターの IN に、コンピューターの OUT から BASS POD PRO の IN に接続して下さい。この時、BASS POD PRO の電源が入っている事を確認して下さい。

2. ソフトの起動

Web ページ http://www.line6.com/Main/Support/Software/software.cfmSoundDiver から SoundDiver インストラーをインストールして下さい。Update バージョンも Web のサポートページ www.line6.com からインストールすることができます。インストールの後、MIDI でコンピューターと BASS POD PRO を接続し電源を入れると、新しくインストールした SoundDiver ソフトウエアが起動します。

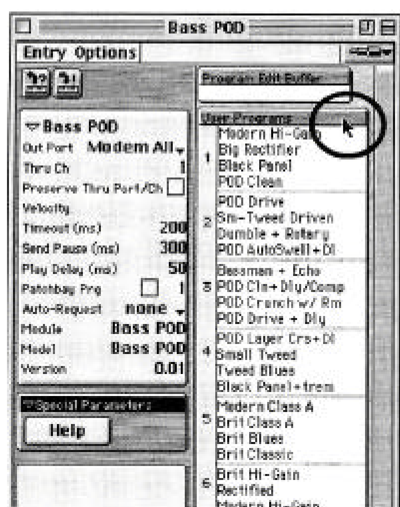
3. Emagic 社のスクリーン表示後、English の言語を選択します。

4. ポートの設定

MAC）OK を押す前にモデム、プリンター、USB が正しいポートに接続されているか確認して下さい。

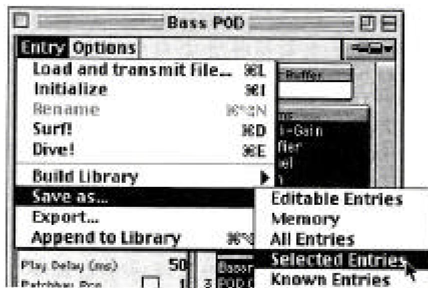
WIN）MIDI ポートに対して各種設定の確認が表示されます。設定を確認しながら OK を押します。

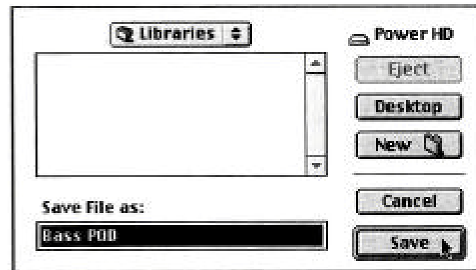
5. SoundDiver が BASS POD PRO と通信を開始します。RequestDevicsMemories と表示されたら OK を押して BASS POD PRO のデーターを SoundDiver に送ります。



6. 左記のような画像が表示されます。マウスを使ってユーザープログラムのヘッダーバーをクリックすると 32 ユーザーメモリー全部がハイライトされます。

7. MAC）2 つのメニューEntry と Options がウィンドウに表示されます。Entry から Save as...を下記の通り選びます。SoundDriver は標準の SaveFile ダイヤログ・ボックスを表示します。これでライブラリーを SoundDriver ライブラリー・フォルダーに保存する準備ができました。SAVE をクリックして保存します





WIN）Entry メニューがスクリーン上部に表示され、File の中から Save as...を選択します。SoundDriver ソフトウェア・ライブラリーのファイルが起動時に選択されます。ファイルの名前を入力して SAVE ボタンを押します。

8. 最後に File メニューから OPEN を選択すると、下記のような表示に変わります。ここで保存したライブラリーを開いて確認します。

